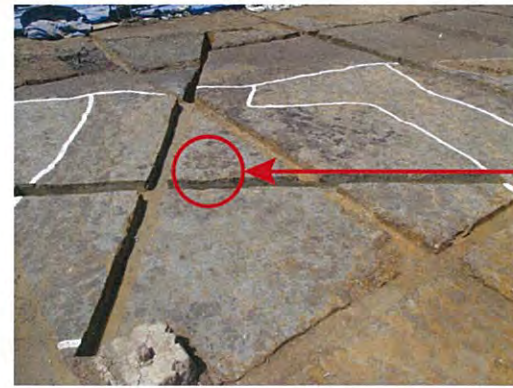


2 下層の調査 (Ⅷ・区層)

下層の水田は、一辺が4m前後のものを中心とした水田が何枚も複雑に入り組んで営まれているのが特徴です。この時期には、現在のように整然と畦で区画された水田がすでに登場していますが、まだまだ水田に水を引く技術が未熟だったものとみられ、その土地に合わせたいろいろな形の水田が営まれています。

下層では水路も数多く検出しました。水路は遺跡を東西・南北につらぬく川のような太いものから、幅20cmから1m前後とさまざまな大きさの水路が枝分かれして水田に水をみちびいています。ところどころ、池のような深い部分やたくさんの杭が打たれた部分があり、水田に水を引くための工夫が各所にみられます。遺物は水路を中心として、平安時代の土師器や須恵器の破片が数多く出土しました。また、ものをたたくのに使った石器や砥石なども少数出土しました。



水田の区画



水田の踏み抜き痕

水田は「畦畔」によって区画されています。内側の黒い部分が水田で、外側の白い部分が畦畔です。

水田を耕作する時に踏み抜いた跡が足痕状に残ります。



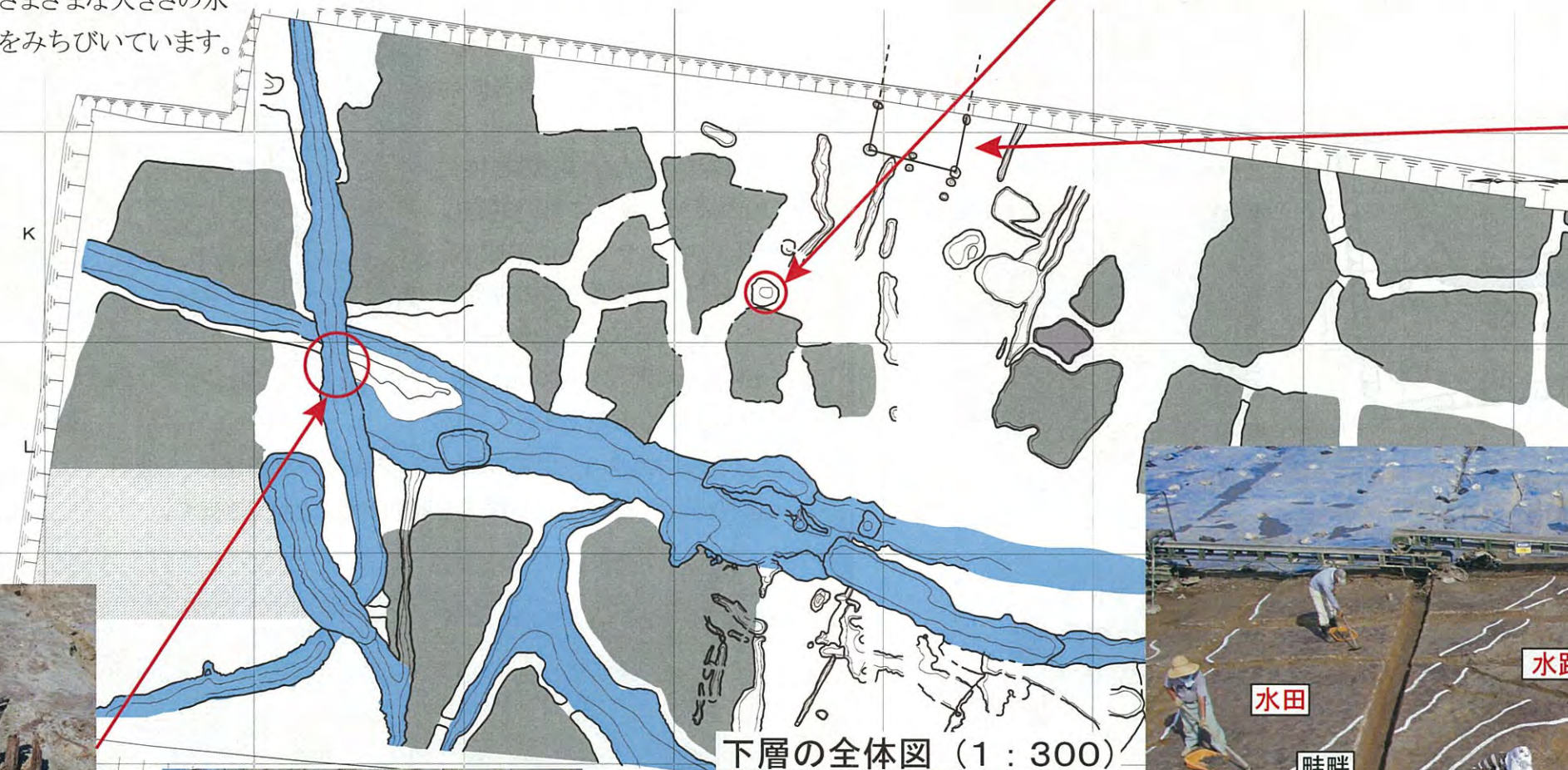
井戸に打たれた杭

井戸には、杭が正方形に打たれています。井戸の壁が崩れるのを防ぐためと考えられます。



井戸から出土した土器

井戸からは完全な形をした土器が出土しました。井戸を破棄する際に、祭祀を行ったと考えられます。



下層の全体図 (1 : 300)



掘立柱建物

遺跡の中で中央部東端だけに、柱の穴が見つかりました。調査区外になりますが、東側へ小さな集落が展開する可能性も考えられます。



水路に打たれた杭

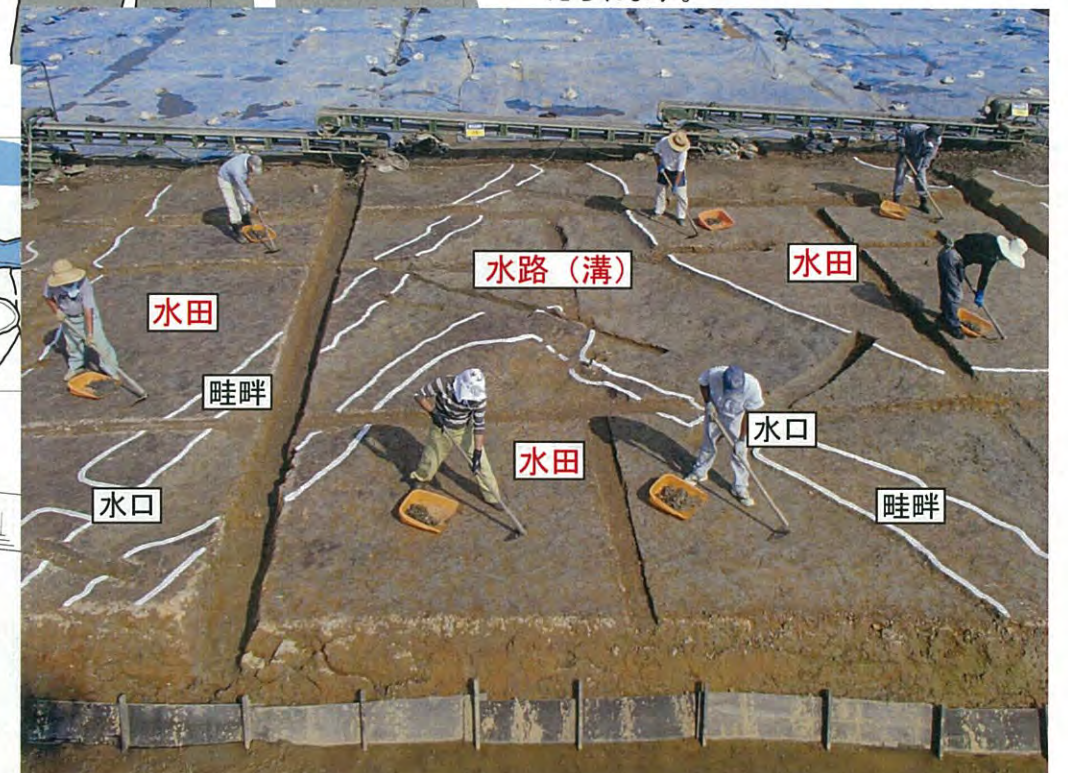
水路の一部には杭が打たれた場所があります。これは水の流れを堰き止めるものと考えられます。



水田と水口



水田と水口



水田と水口と水路